

作成日	2025 年 6 月 20 日
研究科名	教育学専攻

自己評価：S・**A**・B・C

**評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み**

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

**参照資料**

- ・令和6年度自己点検評価シート
- ・令和6年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画およびR7学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等

**【現状分析】**

(ア) 昨年度の自己点検・評価を通じて、教育の質向上に向けた課題が明確となった。大学院教育においては、成績評価の妥当性や成績分布の扱いに関する教員間の認識の差が課題となり、意識統一の必要性が示された。また、「統合的能力」の育成や教育課程の体系化、学生支援、進路・資格取得状況の把握、情報発信の強化など、多方面にわたる改善の余地が確認された。

(イ) 昨年度の自己点検・評価に基づき、教育支援や成績評価、情報発信の面で課題が明確となった。学生の資格取得や進路状況の把握、教育分野のニーズ調査、学位授与方針に基づく情報提供など、学生の学習成果をより適切に支援・評価する体制の整備が求められていた。

**【成果】**

(ア) 教員間で成績評価の妥当性について協議を開始し、評価基準の共有を進めている。FD活動では「統合的能力」に関する教員間の意識統一を図り、修了時調査に関連項目を検討することで教育成果の可視化を進めている。さらに、大学院生のニーズに応じた教育や授業のあり方を把握することにより、大学院への入学希望者のニーズに対応するための大学HPでの教育学専攻の情報発信を行うこととなり、具体的な改善が進展しつつある。

(イ) 大学院アンケート項目「2 授業内容は期待していたとおりであった」では、「大変当てはまる」37.5%、「やや当てはまる」62.5%となっており、教育分野のニーズ調査の結果を授業開講計画に反映させた結果であると考え。資格取得・進路状況に関する聞き取りを実施し、学生支援の質向上につなげることができた。大学HPにて、学位授与方針に基づく学習成果の可視化に向けた情報発信を行う体制が整いつつある。

**【課題】**

大学院アンケート項目「15 授業時間外に、授業に関する学習に取り組んだり、自主的な研究・実験に取り組む時間は1週間平均でどれくらいですか。」において、6～10時間が50.0%、1～5時間が12.5%で、16時間以上の学生はいなかった。このことから、授業時間外での学生の主体的な学びや研究意欲の醸成という点が課題となっている。

**【改善・発展方策】**

前期・後期それぞれ一回以上、個別面談や研究進捗報告の機会を設けることにより、教員が大学院生の研究活動を継続的に支援する体制づくりに努めるとともに、院生共同研究室で研究活動が遂行できるよう利便性の向上に取り組む。学会発表や研究会への参加支援を行うことにより、研究意欲の向上を促す機会を設ける。